



令和7年度

富山県薬剤師確保対策推進協議会資料

1. 確保修学資金制度「地域医療コース」について
2. 薬剤師の確保の状況について
3. 今年度の取組みについて
4. 令和8年度の取組みについて
5. 富山大学薬学部薬学科の現状と取組みについて

令和8年3月3日

令和7年度富山県薬剤師確保対策推進協議会



1. 確保修学資金制度「地域医療コース」 について

<富山大学薬学部「地域枠」の創設について>

※ 令和5年3月8日発表

富山県内の持続的な医療基盤の充実・産業の発展を支える中核となる薬剤師の輩出・地域定着を目指す。
国立大学の薬学部として、全国初の「地域枠」。

- 募集対象： 富山県内の高等学校等を卒業した者（卒業1年以内）
- 募集定員： 10名（薬学部薬学科70名の内数）
- 選抜方式： 一次試験…書類審査、適性検査（英/数/物/化の記述式試験）
最終試験…面接、地域医療等に関するプレゼンテーション
- 教育課程： 地域創生型カリキュラム
 - ・ 県内製薬企業へのインターンシップ（企業薬剤師育成学）
 - ・ 県内病院・行政等の見学ローテーション（薬剤師キャリアデザイン学）など

令和6年4月入学生への
入試から対象



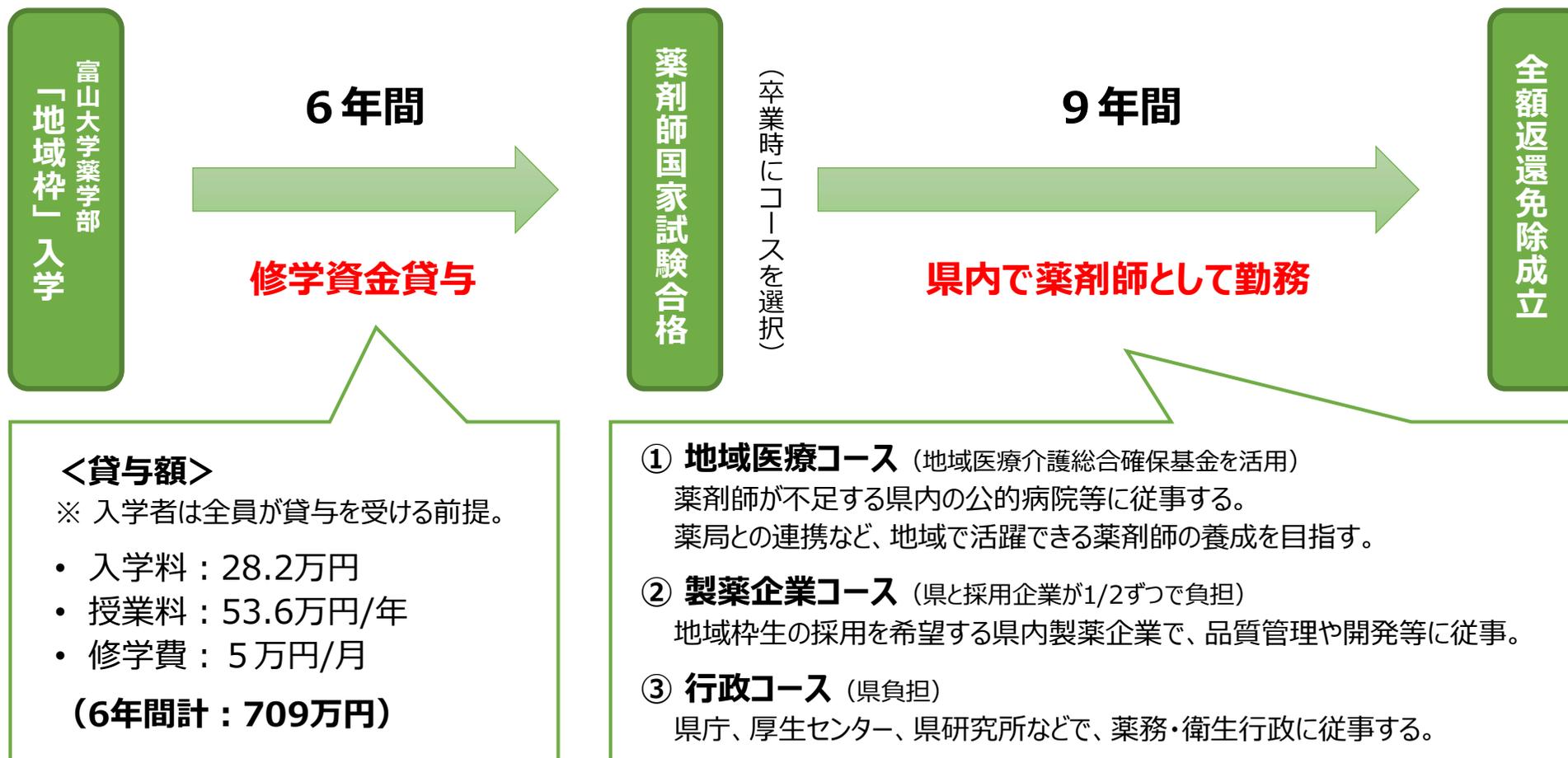
- 薬剤師の採用難が続く本県において、地域枠から輩出される薬剤師には、**確保の必要性が高い従事先に、確実に定着**することが期待されている。
- 地域枠生に対する経済的インセンティブの付与で、**優秀な学生を集める**とともに、**学業に集中できる環境の提供により、地域をリードできる人材の育成**につなげる。

<富山大学薬学部「地域枠」について>

- 募集対象： 富山県内の高等学校等を卒業した者（卒業1年以内）
- 募集定員： 10名（薬学部薬学科70名の内数）
- 教育課程： 地域創生型カリキュラム
 - ・ 県内製薬企業へのインターンシップ（企業薬剤師育成学）
 - ・ 県内病院・行政等の見学ローテーション（薬剤師キャリアデザイン学）など

※国立大学薬学部として全国初

令和6年4月入学生への
入試から対象



薬剤師修学資金貸与事業の取扱いについて (令和3年12月24日付厚生労働省事務連絡)

確保基金を活用して薬剤師修学資金貸与事業を行う場合の、具体的な要件の考え方を示したものの(詳細な運用は各都道府県に委ねられる)。ポイントは以下のとおり。

<返済免除の要件>

- ◆ 県が選定した医療機関で、貸与期間の1.5倍以上の期間勤務すること(6年であれば9年)。
- ◆ 県が策定する「プログラム」を満了すること。

<就業先医療機関>

- ◆ 薬剤師の偏在・充足状況を踏まえて、県が必要な調整を行った上で選定する。
- ◆ 異なる機能を有する医療機関を複数経験することが望ましい。
- ◆ 薬局は、営利性を持たない開設者に限る。

<プログラムの内容>

- ◆ 薬剤師の確保と、対象薬剤師の能力の開発・向上の両立が図れるプログラムを県が策定
- ◆ プログラムは、対象となる薬剤師の希望に対応したものとなるよう努める。
例) 認定・専門薬剤師取得に必要な経験が可能なプログラム
大学病院等に勤務する期間を設定し、卒後臨床研修を受けることが可能なプログラム
- ◆ 義務年限の半分以上の期間は、薬剤師が不足するとして、県が特に指定する医療機関で就業

地域医療コース検討ワーキンググループについて

● 所掌事項

1. 富山県地域薬剤師確保修学資金貸与条例の地域医療コースに関すること
2. その他会議の目的に関連して必要な事項に関すること

- 主に、地域医療コースの卒後プログラムの制度設計の検討を行う。
- 必要があれば、その他、県内病院薬剤師の確保に関連する意見交換等の場として活用。

● 委員名簿

氏名	所属・役職
加藤 敦	(一社) 富山県病院薬剤師会会長 (富山大学附属病院)
稲村 勝志	(一社) 富山県病院薬剤師会副会長 (富山労災病院)
向井 妙子	(一社) 富山県病院薬剤師会副会長 (富山県立中央病院)
松谷 裕二	富山大学薬学部長
笹島 厚美※	富山県厚生部薬事指導課長 (*令和7年3月31日まで: 岩瀬 怜)

- 議論の進捗に伴い、必要に応じて随時、委員の追加、参考人等の出席要請を行う予定。

事務局：富山県厚生部薬事指導課

地域医療コース検討ワーキンググループの検討状況（1）

● 基本的な考え方

「①地域医療体制の充実」、「②地域卒卒生のキャリア・待遇」、「③実務的に可能な制度・体制」について考慮し、バランスのとれたデザインとする必要がある。

①地域医療体制の充実	<ul style="list-style-type: none">・ 薬剤師の<u>不足が顕著</u>な病院での<u>人材確保、長期的な定着</u>・ 各地域・病院で<u>必要とされるスキルの養成</u>・ 病棟活動など新たに求められる業務への対応・ 各時点での不足状況を踏まえた対応
②地域卒卒生のキャリア・待遇	<ul style="list-style-type: none">・ <u>本人の希望</u>に対する配慮・ <u>公平性の担保</u>、待遇面での不利益の回避・ 専門・認定資格の取得など<u>キャリアアップの機会</u>・ 産育休などのライフイベントに対するサポート
③実務的に可能な制度・体制	<ul style="list-style-type: none">・ 各組織の<u>定員・採用枠</u>・ 人事・給与・採用等の<u>制度上の限界</u>・ 外的要因等の変化に対応するフレキシビリティ

地域医療コース検討ワーキンググループの検討状況（2）

● これまでの主な議論

<キャリア形成について>

- ◆ 薬剤師として必要なスキル・専門性は、病院の規模や機能によって異なる。ある程度長期に一貫したキャリア養成の方針が必要。（例えば、すべての病院でがん専門薬剤師の養成が求められているわけではない。）
- ◆ 資格取得に必要な経験要件は、他の病院での勤務・研修・カンファ参加等を通じて得る場合がある。
- ◆ 専門性・分野の選択には、仕事をしていく中での本人の希望や興味による部分がある。
- ◆ 地域卒生のみに向けたプログラムではなく、他の職員も含めたキャリア養成のあり方として考える必要がある。

<採用・身分などについて>

- ◆ 一貫した教育・養成や、人事上のサポートができる体制が必要。
- ◆ 県・市町村・法人等の人事制度、地域卒生以外との公平性などに鑑みれば、各病院・組織の採用試験のプロセスは経る必要がある。
（※ 条例上、地域卒生の所属病院は「知事が指定する」ので、採用プロセスとの調整が必要）
- ◆ 所属病院には小・中・大規模の病院が含まれるが、薬剤師不足の病院への供給が可能な仕掛けが必要。

地域医療コース検討ワーキンググループの検討状況（3）

● これまでの主な議論

<その他の論点>

- ◆ 他県でも、令和7年度から、卒後の県内勤務を要件とする薬学生向けの修学資金貸与制度は、宮城県・茨城県で開始されているので、他県の取組みも参考にするべき。
- ◆ 公的病院での薬剤師のニーズから、地域医療コースの人数の需要数が決まる。今後の県内公的病院の薬剤師の需給や、次期地域医療構想に基づく病床数の変化などについて、各公的病院へのアンケート等を通じてWG内で調査し、注視していくべき。
- ◆ 地域医療コース、製薬企業コース、行政コースの各コースへの所属は、就職活動を通じて採用されたところに応じて決定される。就職活動スケジュールを踏まえ、十分に前もって地域卒生への情報提供を行うべき。

「退職・転籍モデル」と「在籍・出向モデル」の比較

※ ○×△は、以下を想定して分類した。

○：メリット、×：デメリット、△：デメリットとまで言えないが制度的に工夫が必要

退職・転籍モデル		在籍・出向モデル
<ul style="list-style-type: none"> ○ 幅広に各施設に人の配置が可能 × 義務年限後は不足病院での確保は困難 × 継続的な人材育成が難しい 	地域医療の充実	<ul style="list-style-type: none"> △ 不足病院に人を配置できる仕組みが必要 ○ 所属先への将来的な定着が期待できる ○ 一貫した教育・養成が可能になる
<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域卒卒生間の公平性を確保しやすい ○ 一定規模での専門研修の機会を確保しやすい × 短期間で身分が途切れる（退職手当等に影響） 	キャリア・待遇	<ul style="list-style-type: none"> × 所属先決定が与える影響が大きい ○ 希望・状況に合わせたキャリア調整がしやすい ○ 身分の安定感がある（産育休のサポート等）
<ul style="list-style-type: none"> △ 薬剤師のキャリアパスに馴染みにくい × 採用・人事事務の負担が大きい △ ロータの調整プロセスに工夫が必要 	制度・体制	<ul style="list-style-type: none"> ○ 薬剤師のキャリアパスに馴染みやすい ○ 通常の人事制度の枠内で考えやすい △ 最初の採用プロセスに工夫が必要



薬剤師の場合、最初に従事した医療機関に所属し、他の医療機関に派遣される場合も、出向の形態をとる方が『想定しやすい』のではないか。（茨城県の貸与制度も同様）

そこで、一旦は、「在籍・出向モデル」をベースにした検討を進めることとしてはどうか。

（※ 今後の検討に応じて、必要があれば「退職・転籍モデル」を再検討することを否定するものではない。）

「地域医療コース」のイメージ（改訂案）

- 地域医療コースは、規模や機能などが異なる県内の複数の公的病院を経験する9年間のプログラムを設定し、これを満了することを返還免除の要件とする。
- 地域卒卒業生が従事する医療機関は県が指定するものとし、配属される従事先の調整は富山県病院薬剤師会と連携して行う。

「地域医療コース」における地域卒生が従事する病院（イメージ）

小規模病院

○地域に根差した医療

- 地域住民への初期診療
- 慢性疾患のフォローアップ
- 在宅医療・訪問診療支援 等



中規模病院

○地域医療の中核

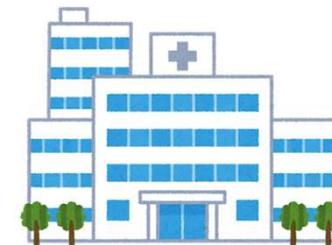
- 地域の救急医療の受け入れ
- 周産期・小児・高齢者医療
- 地域医療機関との連携 等



大規模病院

○高度・専門医療の中心

- 専門的薬物治療の支援
- 救急・災害医療の対応
- 治験業務への参画 等



9年後のコース終了後は、地域包括ケアシステムを担うキープレイヤーとなることを期待。

※具体的な研修プログラムは、引き続き検討を進める。（R9年度目途）

富山県内の公的病院

- 公的病院は、県立・市町村立病院のほか、国立病院機構、日本赤十字社、済生会などによる病院で、地域医療の中で公的な役割を担う（県内24病院）。それぞれ、病院の規模や機能が異なる。

高岡医療圏

- 厚生連高岡病院（病床数：497）
地域医療支援病院、3次救急
- 高岡市民病院（病床数：343）
地域医療支援病院
- 富山県済生会高岡病院（病床数：251）
地域医療支援病院
- 金沢医科大学氷見市民病院（病床数：250）
- JCHO高岡ふしき病院（病床数：199）
- 射水市民病院（病床数：199）

新川医療圏

- 黒部市民病院（病床数：414）
地域医療支援病院、2.5次救急
- 富山労災病院（病床数：247）
地域医療支援病院
- あさひ総合病院（病床数：109）

※病床数は令和7年6月時点

3次/2.5次救急

救命救急センター、地域救命センターを持ち、重篤な患者へ対応

特定機能病院

国が指定する高度医療の提供を行う病院

地域医療支援病院

紹介患者に対する医療提供など、かかりつけ医への支援を担う病院

砺波医療圏

- 市立砺波総合病院（病床数：396）
地域医療支援病院、2.5次救急
- 国立病院機構北陸病院（病床数：272）
精神疾患、神経難病、重症心身障害への医療
- 北陸中央病院（病床数：193）
- 公立南砺中央病院（病床数：104）
- 南砺市民病院（病床数：175）

富山医療圏

- 県立中央病院（病床数：716）
地域医療支援病院、3次救急
- 富山大学附属病院（病床数：612）
特定機能病院
- 市立富山市民病院（病床数：508）
地域医療支援病院
- 富山赤十字病院（病床数：401）
地域医療支援病院
- 国立病院機構富山病院（病床数：285）
重症心身障害者、結核への医療
- 済生会富山病院（病床数：250）
地域医療支援病院
- 厚生連滑川病院（病床数：199）
- リハビリテーション病院・こども支援センター（病床数：232）
- かみいち総合病院（病床数：199）
- 市立富山まちなか病院（病床数：50）

地域医療コース検討ワーキンググループの今後の予定

● 今後の予定

1. 今年度、継続してWG内で検討を進め、①研修プログラム、②対象病院の選定方法、③採用プロセスについて、実現可能な制度設計に向けた検討を進める。
2. 並行して、県内公的病院などの関係者に対し、意見ヒアリングを行っていく。
3. 来年度に開催する本協議会で、WGの検討結果（または検討状況）を報告することを目指したい。

研修プログラム

- 地域で必要とされるスキルを養成するもの
- 他の医療機関での経験、専門・認定資格の取得など、本人の希望を踏まえつつ、キャリアアップの機会を考慮する必要がある
- プログラム内容は一律である必要はなく、多様なバリエーションがあってもよい

対象病院の選定

- 病院間の採用希望の調整を図るための仕組み・ルールが必要になる

採用プロセス

- 一定の公平性が担保される必要がある（地域枠生・外部学生含め）
- 小規模病院への配置も可能となる「仕掛け」を考慮する必要がある

フォローアップと見直しの必要性

- 国の推計によれば、全国の薬剤師数は、将来的に供給が需要を上回り、薬剤師が過剰になるとされている。
- 本県で直ちに薬剤師の供給状況が改善するとは考えがたいが、今後、全国状況を反映して偏在が解消に向かう可能性もあり、長期的な予測は困難。
- 薬剤師の確保状況をフォローし、奨学金制度の終了を含め、随時、見直しの検討を継続すべきではないか。

<フォローアップの時間軸>

※ 仮に、第8次医療計画中の入学生まで奨学金制度を継続すると、最終年次の義務年限終了は、令和25年度末となる。



<需給の変動要因の例>

供給

- 薬剤師確保、UIターン促進などの効果
- 都市部・一部の業種での薬剤師の余剰
- 県内の若年人口の定着・流出

需要

- 人口減による医療需要の縮小
- 機械化・デジタル化による業務の変化
- 在宅医療、医師のタスクシフトなど業務の変化

<フォローアップの指標>

薬剤師の充足状況を、単一の指標で機械的に判断するのは困難。複数の指標を継続的にフォローし、本協議会で総合的に充足状況の評価を行う。

(指標の例)

- 募集に対する採用充足率
- 3師統計の薬剤師数（従事先別・人口10万人対など）
- 薬剤師偏在指標（病院・薬局）
- 薬学部在籍者数調査
- 県内企業、病院等へのアンケート調査

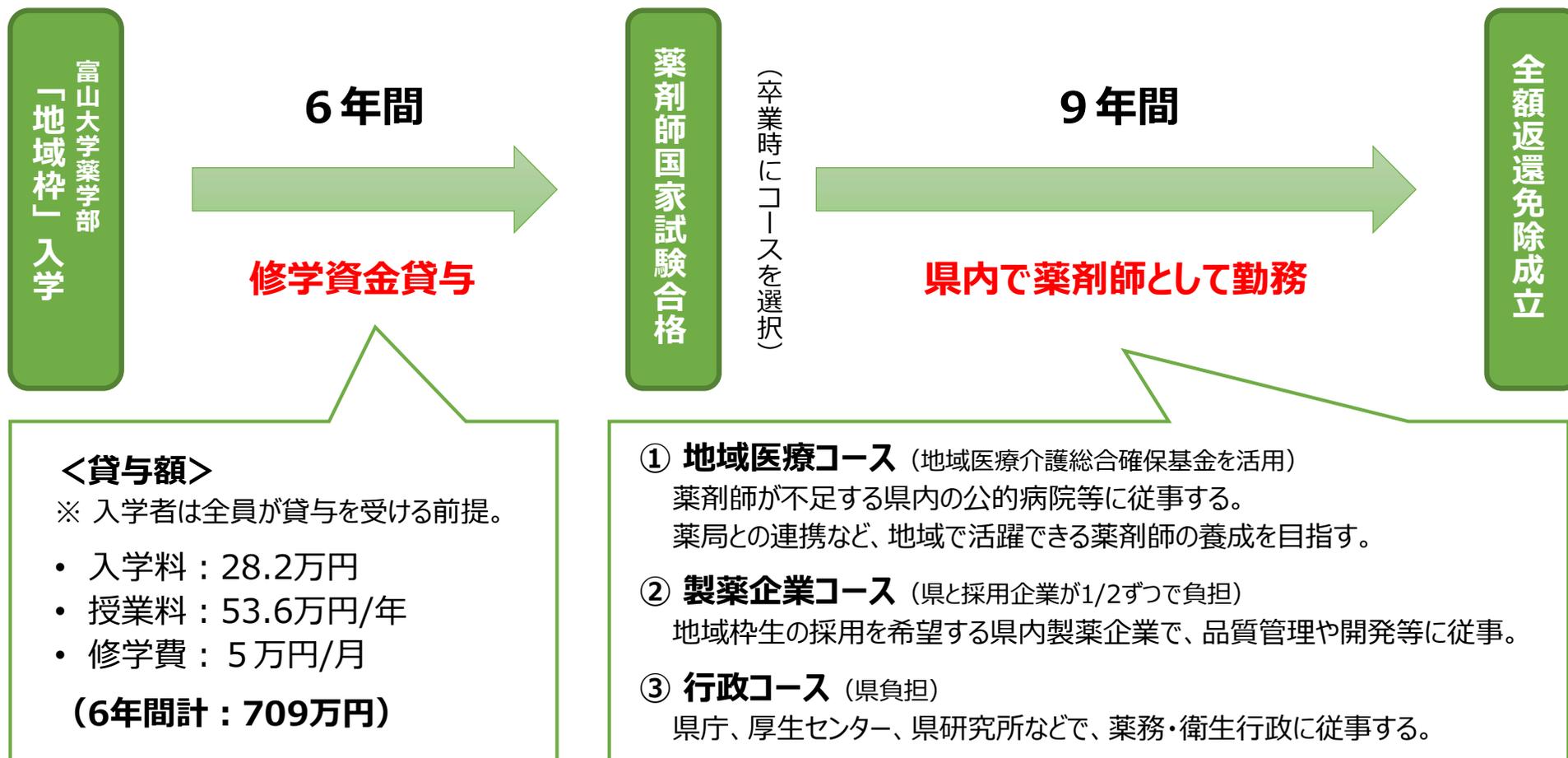
富山大学薬学部「地域枠」を対象とした奨学金制度の概要 ※再掲

<富山大学薬学部「地域枠」について>

- 募集対象： 富山県内の高等学校等を卒業した者（卒業1年以内）
- 募集定員： 10名（薬学部薬学科70名の内数）
- 教育課程： 地域創生型カリキュラム
 - ・ 県内製薬企業へのインターンシップ（企業薬剤師育成学）
 - ・ 県内病院・行政等の見学ローテーション（薬剤師キャリアデザイン学）など

※国立大学薬学部として全国初

令和6年4月入学生への入試から対象



「製薬企業コース」のイメージ

- 製薬企業コースでは、「くすりの富山」の医薬品産業を担う人材としての薬剤師を製薬企業に輩出することを目的に、9年間以上、県内の対象企業で従事することを返還免除の要件とする。
- 返還免除に要する費用は、受益者から応分負担を求める観点から、地域枠生を採用した企業から1/2の負担を求め、県が残りの1/2を負担する。

対象企業の登録

地域枠生の採用を希望する企業を登録

対象企業リスト

- ・富山A薬業
- ・富山B製薬
- ・滑川C薬品
- ・高岡Dファーマ
- ・

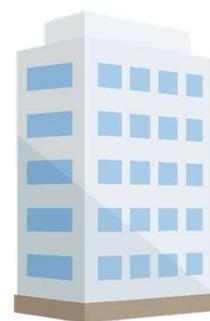
＜対象企業の主な基準＞

- ◆ 富山県内の製薬企業
- ※ 富山県内で医薬品製造業・製造販売業の許可を有していること等
- ◆ 採用学生の修学資金の返還の負担に同意



修学資金の返還費用を
県と採用企業が一定割合で負担

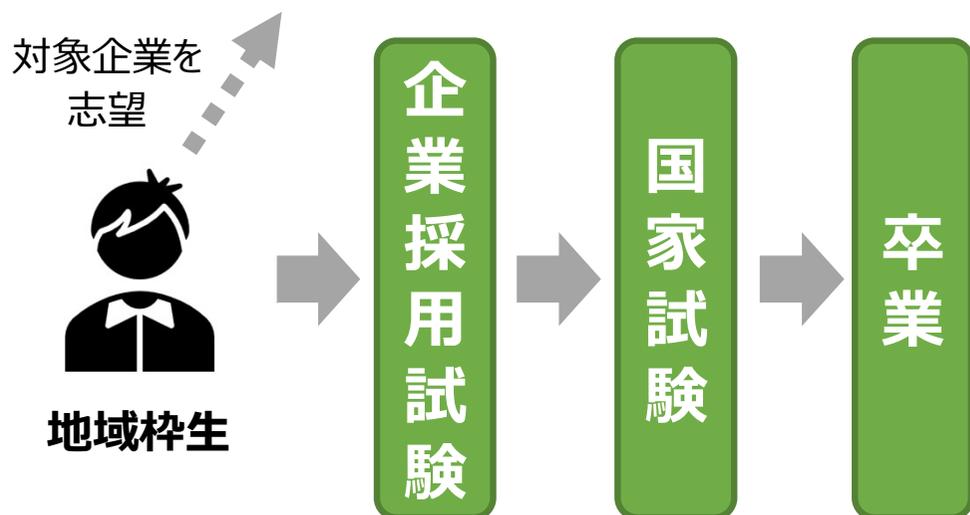
採用企業



- ◆ 製造・品質管理
- ◆ 品質保証
- ◆ 開発・研究
- ◆ 安全管理
- ◆ MR・DI 等

対象企業で**9年以上**の勤務

返還免除



※地域枠生のリストは対象企業に共有

※対象外企業への就職 ⇒ 本人が全額返還

地域枠生採用希望企業リスト

- 令和7年10月の意向調査の結果、現在33社を県HPに掲載中。
- 毎年夏に実施している県内製薬企業へのアンケート調査（くすり振興課実施）の中で、意向調査をお願いする予定。秋ごろを目途にリストの更新を行う（今後も毎年1回のペースで更新予定）。

【地域枠生採用希望企業リスト】（令和7年10月調査）

引き続き地域枠生を採用したいという県内製薬企業を募集

- 株式会社アイカワ
- アルプス薬品工業株式会社
- 株式会社池田模範堂
- 北日本製薬株式会社
- 救急薬品工業株式会社
- 株式会社廣貫堂
- 金剛化学株式会社
- 金剛薬品株式会社
- 五洲薬品株式会社
- ジャパンメディック株式会社
- 新新薬品工業株式会社
- 第一薬品工業株式会社
- ダイト株式会社
- 大和製薬株式会社
- 立山化成株式会社
- テイカ製薬株式会社
- 東亜薬品株式会社
- 東興薬品工業株式会社
- 富山めぐみ製薬株式会社
- 日医工株式会社
- 日東メディック株式会社
- 株式会社パナケイア製薬
- ファーマパック株式会社
- 福寿製薬株式会社
- 富士化学工業株式会社
- 富士製薬工業株式会社
- 富士フィルム富山化学株式会社
- 株式会社富士薬品富山事業所
- 水橋保寿堂製薬株式会社
- 明治薬品株式会社
- 陽進堂ホールディングス株式会社
- リードケミカル株式会社
- 株式会社渡邊薬品

※ R7年10月に採用意向を調査したものであり、今後、企業が追加・削除される可能性があります。

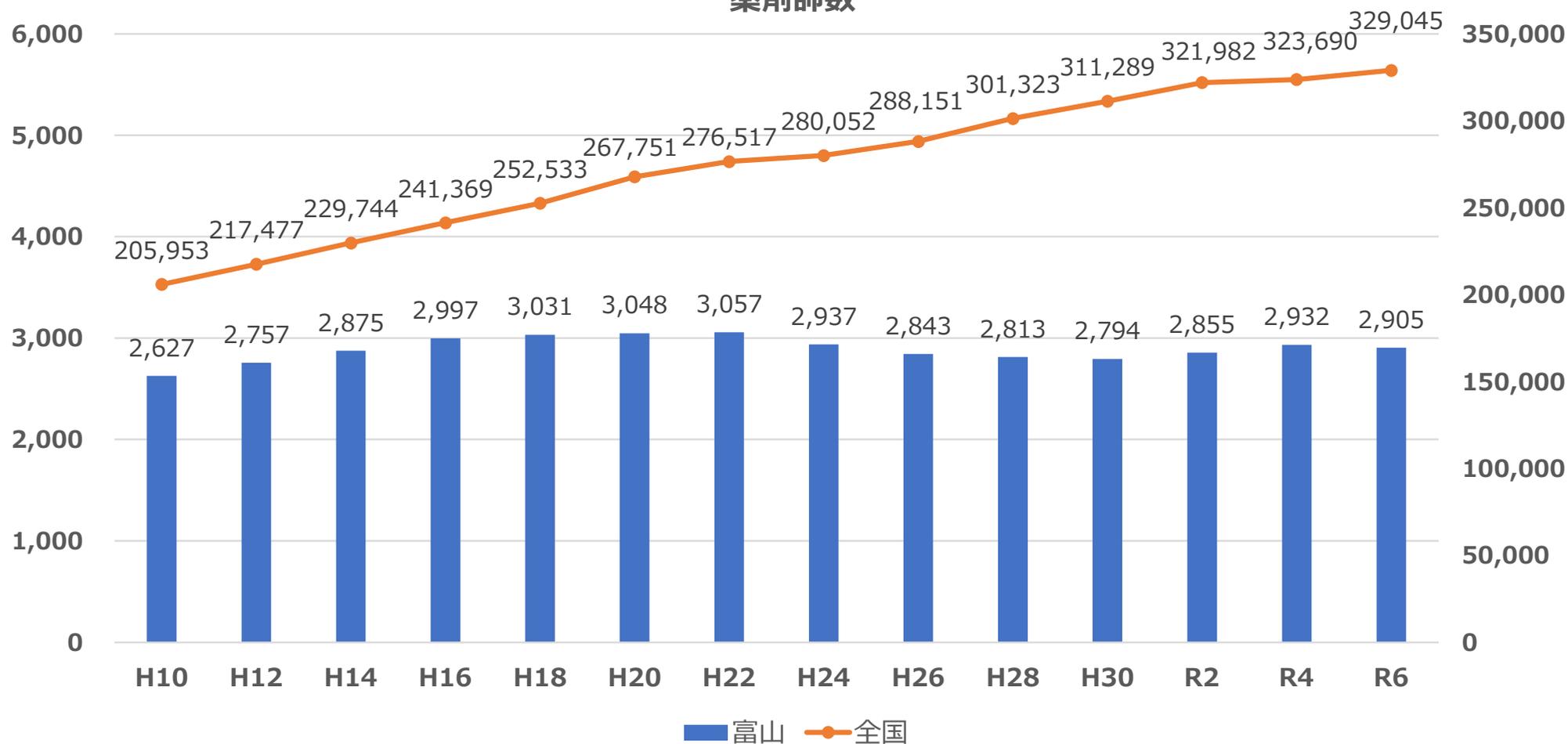
実際に奨学金の返還免除対象となる登録企業は、改めて募集し、就職活動を開始する5年次に地域枠生に通知する予定です。

2. 薬剤師の確保の状況について

富山県の薬剤師数の推移

- 過去26年間で、薬剤師は一貫して増加傾向を示しているが、富山県においては横ばいから減少傾向（ピーク時の平成22年と比較し、令和6年で▲5.0%）。新卒薬剤師の就業地の地域偏在が示唆される。
- 令和6年12月末時点のデータ（令和7年12月公表）では、県内の薬剤師数は微減（-27人）だったが、病院・診療所や製薬企業に勤務する薬剤師数など、全体の傾向は大きく変わっていなかった。

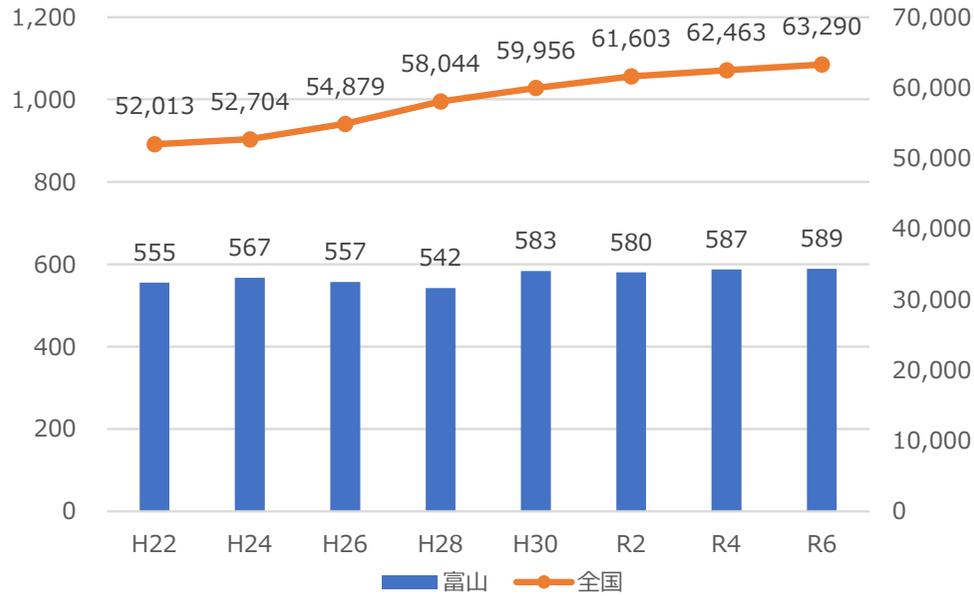
薬剤師数



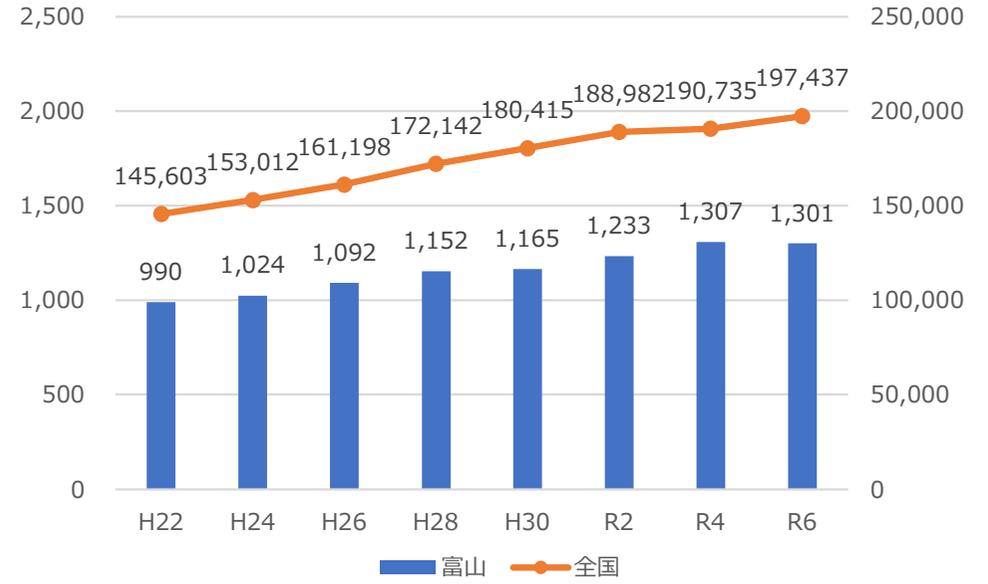
(厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」及び「医師・歯科医師・薬剤師統計」)

富山県の薬剤師数の推移（業種別）

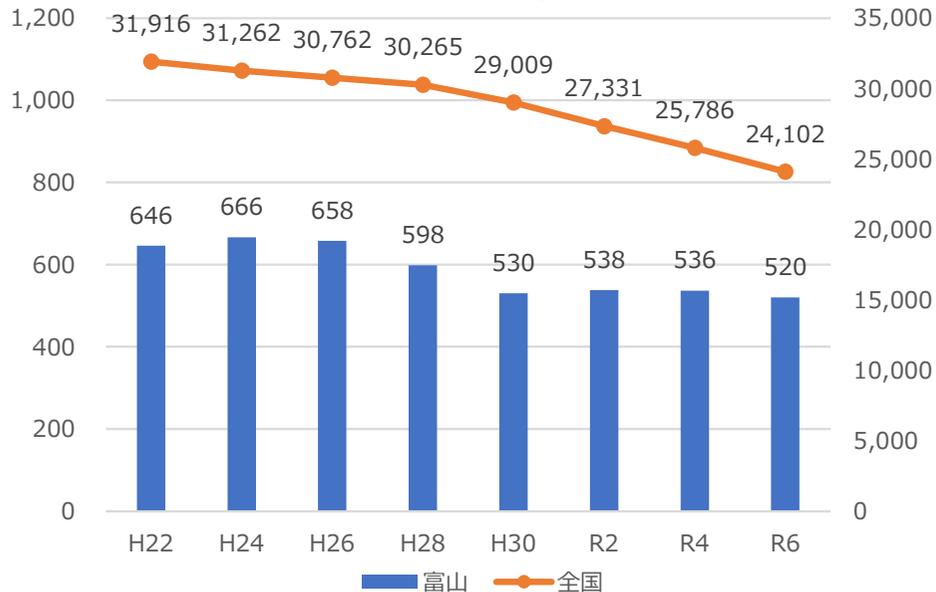
医療施設（病院・診療所等）の従事者



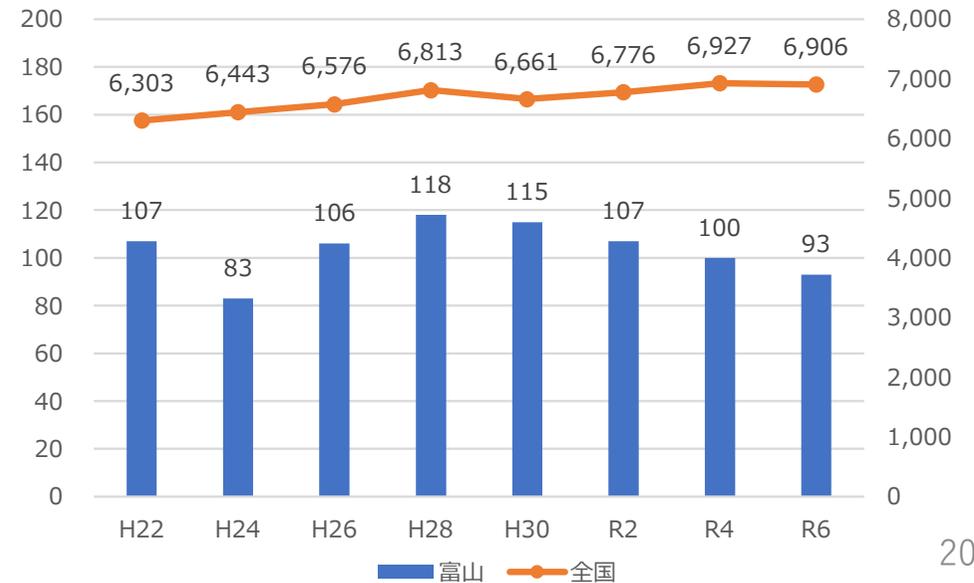
薬局の従事者



製薬企業の従事者



衛生行政・保健行政機関の従事者



富山県内での薬剤師の募集に対する採用充足率

- 県のアンケート調査では、県内の公的病院、製薬企業、県職員のいずれにおいても、また、いずれの年度でも、募集人数に対して4～5割程度しか薬剤師を採用できていない。
- 令和7年度春の入職者の状況については、過去と同様の傾向であった。

(1) 公的病院（23病院）

※くすり政策課・薬事指導課調べ

公的病院へのアンケート結果をもとに、薬剤師の採用数について集計（非常勤職員は常勤換算して計上）
なお、県立中央病院は、県職員としての採用であるため含まれない。

	令和7年度	令和6年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度
採用人数／募集人数	12/35（34%）	22/43（51%）	15.7/42（37%）	19.7/37（53%）	15.3/35（44%）

(2) 製薬企業

製薬企業へのアンケート結果をもとに、薬剤師資格を持つ新卒の採用数について集計

	令和7年度	令和6年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度
回答企業数	67	72	65	70	70
採用人数／募集人数	3/22（14%）	8/30（27%）	9/20（45%）	7/19（37%）	8/19（42%）

(3) 県職員（県庁・厚生センター・県立中央病院など）

県の薬剤師職の採用数について集計（通年採用を実施しており、募集人数は年度当初）

	令和7年度	令和6年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度
採用人数／募集人数	6/13（46%）	9/13（69%）	3/10（30%）	7/13（54%）	4/8（50%）

富山県内出身者の6年制薬学部¹の在籍人数

- 薬学教育協議会の調査によれば、**令和7年7月時点**で6年制薬学部¹に在籍している富山県出身者は**322名**。都道府県人口千人当たりで、全都道府県で最下位（前年度より1位下落）。

【上位5都道府県】

順位	都道府県	在籍者数	人口千人当たり
1	奈良	980	0.7626
2	和歌山	555	0.6307
3	大阪	5,265	0.6012
4	徳島	408	0.5956
5	山梨	471	0.5954

【下位5都道府県】

順位	都道府県	在籍者数	人口千人当たり
43	岡山	733	0.4003
44	山形	362	0.3581
45	岩手	394	0.3441
46	秋田	293	0.3266
47	富山	322	0.3230

一般社団法人薬学教育協議会「令和7年度在籍者数調査結果」より作成
人口千人当たりは、総務省統計局「人口推計（令和6年10月1日現在）」を用いて算出した。

3. 今年度の取組みについて

富山県の薬剤師確保の取組みについて 令和7年度予算額：3,896万円

【薬剤師確保の状況（令和7年度）】 ※富山県薬事指導課調べ

	公的病院	製薬企業	行政 (県職員)
募集充足率 (採用人数/募集人数)	34% (12/35)	14% (3/22)	46% (6/13)

【富山県出身者の6年制薬学部在籍人数（令和7年度）】

順位	都道府県	在籍者数	人口千人当たり
1	奈良	980	0.7626
47	富山	322	0.3230

※「令和7年度在籍者数調査結果：(一社)薬学教育協議会」
「人口推計(R6.10.1現在)：総務省統計局」より算出

【令和7年度以前からの継続事業】

【継】富山県地域薬剤師確保修学資金貸与事業(R7:2,566万円)

R6年度より、富山大学薬学部薬学科に創設された「地域枠」の1期生・2期生(計20名)に対して、卒業後薬剤師となり、一定の期間、県内の公的病院や製薬企業等で勤務した場合に返還が免除となる修学資金を貸与

「富山県地域薬剤師確保修学資金」
入学料・授業料相当額、修学費5万円(月額)6年間計：約709万円

【継】薬剤師育成確保対策事業 (R6:200万円 → R7:200万円)

薬剤師を志す学生を増やすため、中高生・保護者を対象に以下の企画を実施。

◆ 薬剤師のお仕事体験学習：夏休みに薬剤師業務の体験学習を行う

参加者数 (令和7年度)	調剤薬局コース (中学生)	公的病院コース (高校生)	薬総研コース (中・高校生)
	85名	38名	35名

◆ 未来の薬剤師発掘セミナー

春休みに、大学における薬学教育の説明や、病院・薬局・製薬企業等の薬剤師の仕事紹介などのセミナーを開催
(令和6年度参加者数：80名(オンライン含む))

【継】富山県製薬企業セミナー開催等 (R6:100万円 → R7:100万円)

※ 地方大学・地方産業創生くすりコンソーシアム推進事業費の内数

県内の医薬品産業と製薬企業を知ることができる業界研究セミナーの開催
令和6年度…参加企業26社、参加学生数9名
県内製薬企業PRパンフレットの作製

【継】「くすりの富山」薬剤師確保対策事業(R7:1,030万円※継続込)

◆ 地域枠生と考える中高生向け薬学・薬剤師PR事業(100万円)

地域への貢献意欲の高い「地域枠」1・2期生のアイデアを活かした、中高生向けの薬学・薬剤師職のPR対策を、病院・薬業界と協力しながら検討・実施

◆ 人材紹介サービスを活用した行政薬剤師確保事業(350万円)

人材紹介サービスを活用した行政薬剤師の確保を試行的に実施

◆ 「富山県薬剤師確保対策推進協議会」の開催 (R7:100万円)

協議会において、県の薬剤師確保対策について検討を行う

◆ 公的病院薬学生短期インターンシップの開催 (R7:140万円)

全国の薬学生を対象に、県内の公的病院で短期インターンシップ(職場体験)を開催する。県外の薬学生に対しては、富山県までの往復旅費をサポート
※R7年度は、3日間で機能の異なる3病院を体験するプログラムを実施

参加者数 (令和7年度)	県外大学生	県内大学生
	11名	6名

◆ 県庁・県立中央病院の薬剤師職員の確保対策 (R7:330万円)

リクルートサイトの活用や、就活イベントでのPR活動など
「病院採用枠」の新設・早期募集を実施(令和6年度～)
お仕事紹介動画やネット記事を作成し、県のホームページ等で公表

薬剤師確保の取り組み①

地域枠生と考える中高生向け薬学・薬剤師PR事業

- 「富山の中高生が薬学部に行かない」という現状に対し、地域枠1期生・2期生のアイデアに基づき、
- 地域枠生の母校にて『薬学・薬剤師の魅力発信セミナー』を開催（R6～）

地域枠生との意見交換

- 地域枠生を「薬剤師確保対策アドバイザー」へ委嘱
- グループワークを実施し、学生へのアプローチ方法を検討

<グループワーク風景>



地域枠生のアイデア

お仕事体験など、中学生の時に薬局や病院の仕事を体験できるのは大切!



薬剤師 = 調剤業務のみのイメージがあるため、幅広い就職先の選択肢を伝えたい!

進路を決めていない中高生に、薬剤師という資格の意外な魅力を教えてあげたい!

→ アイデアを基に地域枠生の母校にて『薬学・薬剤師の魅力発信セミナー』を開催

<母校セミナーの様子>



母校セミナーの実施状況

- 富山大学薬学部3～6年生の協力を得て、学生生活や研究内容についての講演や座談会を実施
- 地域枠生は座談会の進行役として参加

▼令和6年度

富山南高校・富山東高校・富山中部高校

▼令和7年度（開催予定）

富山東高校・**新**呉羽高校・**新**福岡高校・**新**富山第一高校

薬剤師確保の取組み②（薬剤師のお仕事体験学習）

- 中学生及び高校生が、薬剤師をはじめとする医薬品に関わる仕事に対する理解を深め、進路選択の参考とすることを目的に、「薬剤師のお仕事体験学習」を開催（H24～）

(1) 調剤薬局体験コース(中学生対象、県内 47 調剤薬局で実施)

- ・薬剤師の役割、調剤薬局での業務に関する説明
- ・模擬調剤(錠剤、散剤、軟膏、シロップ剤の調整等)

(2) 病院内薬局体験コース(高校生対象、県内 8 公的病院で実施)

- ・病院薬剤師の業務に関する説明
- ・模擬調剤、薬剤鑑別、病棟見学等(内容は病院ごとに異なります)

(3) 製薬体験コース(中学生及び高校生対象、富山県薬事総合研究開発センターで実施)

- ① 製剤実習：顆粒剤及び錠剤を作製し、評価の試験を実施
- ② 分析実習：くすりの成分の分析



【参加者数】

<高校生>

	公的病院	薬総研
R1	55名	6名
R4	40名	24名
R5	39名	23名
R6	39名	21名
R7	38名	13名

<中学生>

調剤薬局	薬総研
64名	40名
52名	24名
52名	25名
83名	25名
85名	22名

薬剤師

ってどんなお仕事？

くすりの専門家 薬剤師

皆さんも病院や診療所を受診し、薬局で調剤してもらったり、体調がすぐれない時に地域の薬局・薬店でかぜ薬などを購入したりしたことがきっとあると思います。
こうした医薬品が、私たちの手に届くまでのいろいろな過程で、薬学を基礎とした専門的な立場から関与しているのが薬剤師です。

※コロナの影響によりR2,3年度は中止、R4年度は一部規模縮小、R6は申込当選者数

薬剤師確保の取組み③（未来の薬剤師発掘セミナー）

- 中学生、高校生及びその保護者を対象にセミナーを開催し、「くすりの富山」の未来を支える薬剤師の重要な役割を、大学における薬学教育や、病院・薬局・製薬企業等での仕事を中心に紹介（H27～）

未来の薬剤師発掘セミナー

薬剤師の仕事への興味と理解を深め、医療の担い手であり「くすりの富山」を支える薬剤師という職業を
進路の選択肢として考えてみませんか！

薬学部に進学するには？ 薬学部ってどんな勉強をするの？ 薬局、病院、製薬企業の薬剤師の仕事内容は？

第1部 講演

薬学部への進学
駿台教育センター株式会社 本部 部長代理 吉井 健二 氏

富山大学における薬学教育
国立大学法人富山大学 薬学部 部長 松谷 裕二 氏

地域医療への貢献

○**薬局薬剤師の立場から**
公益社団法人富山県薬剤師会
富山県青年薬剤師会 運営委員 滝沢 佑太 氏
(ふれあい薬向豊田店 薬剤師)

○**病院薬剤師の立場から**
一般社団法人富山県病院薬剤師会 会長 加藤 敦 氏
(富山大学附属病院薬剤部 教授・薬剤部長・副院長)

富山県の医薬品産業
一般社団法人富山県薬業連合会 有賀 直樹 氏
(東亜薬品株式会社 研究開発本部 製剤研究部 第二製剤室 課長)

私学への進学
北陸大学 薬学部 教授 小藤 恭子 氏

日時・場所

令和8年
3月14日(土)
13:30 ~ 16:00
(開場 13:00)

富山県民会館304号室
富山県富山市新総曲輪4番18号
電話:076-432-3111
※駐車台数に限りがございますので、公共交通機関での来場にご協力ください。

対象者

中学生、高校生、その保護者
定員:100名(先着順)
※現地参加のみ
オンライン配信はございません

申し込み方法

URLまたは二次元コードから入力してください
URL: <https://shinsei.pref.toyama.lg.jp/uhva0n6j>
申込期間 令和8年3月4日(水)まで
※一度のお申し込みにつき1名の受付となります。
※定員に達し次第、締め切ります。
※開催当日は、報道機関の取材・撮影が入る場合があります。

問い合わせ先

富山県厚生部薬事指導課薬事係
〒930-8501 富山市新総曲輪1-7
TEL: 076-444-3234
E-mail: ayakujishido@pref.toyama.lg.jp

参加
無料

主な内容

- ◆ 薬学部への進学・入試について
- ◆ 富山大学における薬学教育【富山大学薬学部】
- ◆ 地域医療への貢献
 - ・ 病院薬剤師の立場から【富山県病院薬剤師会】
 - ・ 薬局薬剤師の立場から【富山県薬剤師会】
- ◆ 富山県の医薬品産業【富山県薬業連合会】
- ◆ 私学への進学【北陸大学】

	参加者数
R3	85名
R4	現地参加 54名、オンライン接続 33
R5	現地参加 42名、オンライン接続 15
R6	現地参加 60名、オンライン接続 20

薬剤師確保の取組み④（公的病院薬学生短期インターンシップ）

- 全国の薬学生 4・5 年生を対象に、富山県の病院薬剤師キャリアへの興味と理解を深めるとともに、将来の県内公的病院薬剤師の確保を目的として実施（R5～）
- 今年度は、8/4～8/29の間に、県内20の公的病院でインターンシップを実施。



【参加者数】

	参加者	
	県内大学生	県外大学生
R5	6名	16名
R6	4名	16名
R7	6名	11名

※R7申込者のうち、3名が前年度参加者のピーター

主な内容

- ◆ 県内の機能の異なる3病院で、3日間かけて病院薬剤師の業務を体験
- ◆ 県外からの参加者には旅費をサポートし、富山県への就職につなげる

大学所在地	石川県	新潟県 岐阜県・長野県	近畿地方 その他中部地方	関東地方	その他
支給額	5,000円	15,000円	20,000円	25,000円	30,000円

協力病院一覧

【東部】

○あさひ総合病院、○黒部市民病院、○富山労災病院、○かみいち総合病院、○厚生連滑川病院、○県リハビリテーション病院・こども支援センター、○済生会富山病院、○県立中央病院、○富山赤十字病院、○富山市民病院、○富山大学附属病院、○射水市民病院

【西部】

○高岡市民病院、○厚生連高岡病院、○済生会高岡病院、○市立砺波総合病院、○南砺市民病院、○金沢医科大学氷見市民病院、○北陸中央病院、○公立南砺中央病院

くすりの富山 薬学生・薬剤師応援サイト

- これまで、病院薬剤師会や薬業連合会のHPでも採用関係の情報やイベント告知などがあったが、薬学生・就活生の目にとまりにくいことが懸念された。
- 富山で薬剤師として働こうとする方の目にとまる情報の「入口」として、ポータルサイトを設置
- 掲載情報については、関係団体の皆さまにも積極的にご活用いただきたい。



新着情報・お知らせ

2024/05/21
7月13日 仕事体験・インターンシップ説明会の実施について
製薬企業

2024/04/07
富山県病院薬剤師求人情報 (R6.4.5現在)
公的病院

[一覧を見る](#)

イベント・研修会

2024/06/05
「薬剤師のお仕事体験学習」の開催について
製薬企業 行政 公的病院 薬局

2024/03/07
「未来の薬剤師発掘セミナー」の開催について
公的病院 薬局

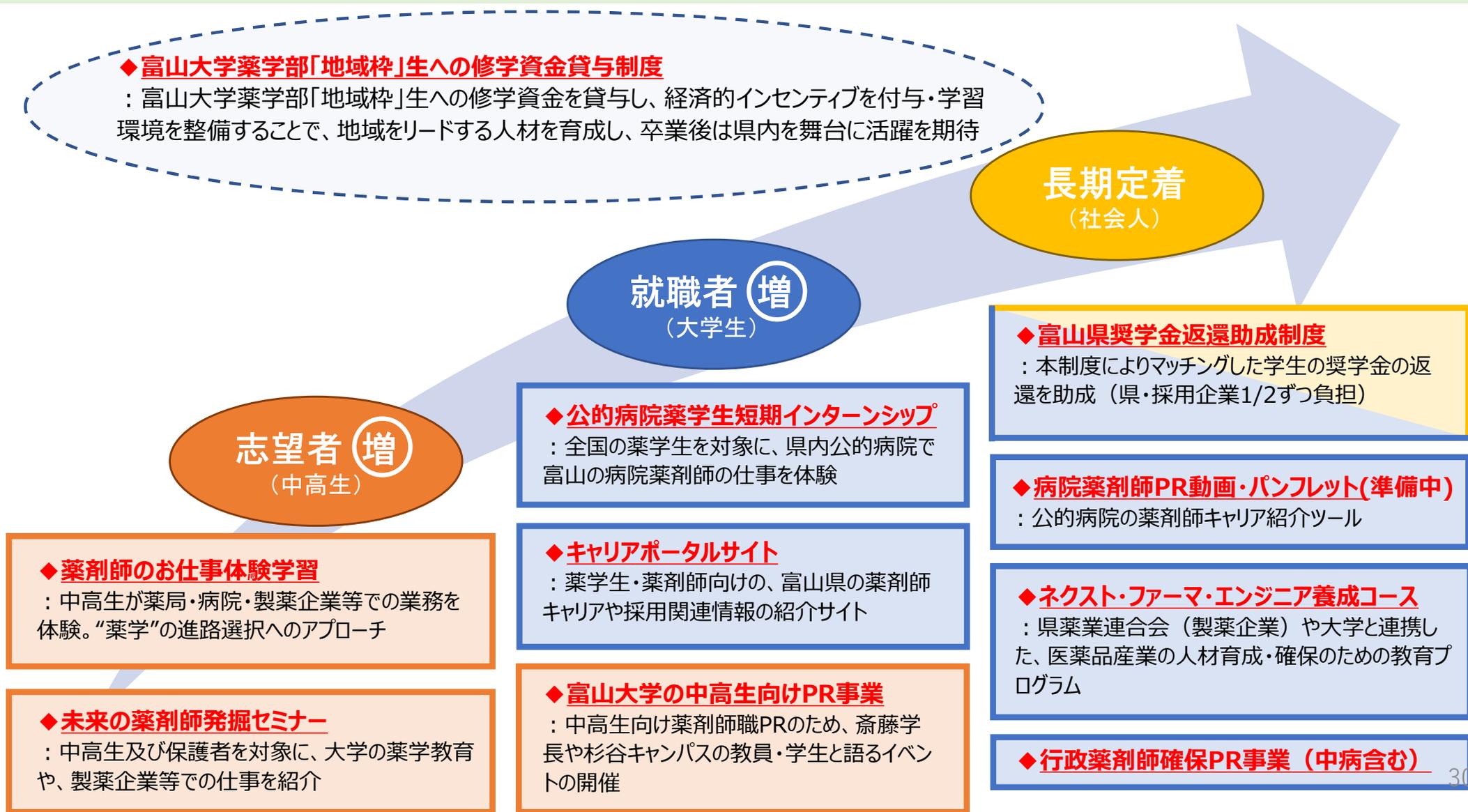
2024/02/17
富山県薬物乱用防止セミナーを開催します
行政 公的病院 薬局 製薬企業

- ✓ 「新着情報・お知らせ」や「イベント・研修会」は、関係団体の皆さま（薬連、県薬、県病薬）自身で、情報の投稿が可能。
- ✓ イベント等の情報は、直接、各団体等のサイトの該当ページにリンクすることが可能。



URL: <https://kusuri-no-toyama.jp/>

- 中高生～大学生～社会人の各段階に対する切れ目のないアプローチにより、県内で活躍する薬剤師を確保するための施策を総合的に実施
- 関係団体による「富山県薬剤師確保対策推進協議会」における議論を通じて、取組み内容の充実を図る。



4. 令和8年度の取組みについて

【令和8年度の実施事業】

② 富山県地域薬剤師確保修学資金貸与事業 (R7:2,566万円→R8:3,702万円)

R6年度より、富山大学薬学部薬学科に創設された「地域枠」の1期生から3期生(計30名)に対して、卒業後薬剤師となり、一定の期間、県内の公的病院や製薬企業等で勤務した場合に返還が免除となる修学資金を貸与

「富山県地域薬剤師確保修学資金」
入学料・授業料相当額、修学費5万円(月額)6年間計：約709万円

③ 薬剤師育成確保対策事業 (R7:200万円 → R8:225万円)

薬剤師を志す学生を増やすため、中高生・保護者を対象に以下の企画を実施。

- ◆ **薬剤師のお仕事体験学習**
夏休みに薬剤師業務の体験学習を行う
- ◆ **未来の薬剤師発掘セミナー**
大学における薬学教育の説明や、病院・薬局・製薬企業等の薬剤師の仕事紹介などのセミナーを開催

④ 富山県製薬企業セミナー開催等 (R7:100万円→R8:100万円)

※ 地方大学・地方産業創生くすりコンソーシアム推進事業費の内数

県内医薬品産業と製薬企業を知ることができる業界研究セミナーの開催
県内製薬企業PRパンフレットの作製

⑤ 「くすりの富山」薬剤師確保対策事業(R8:1,045万円※継続込)

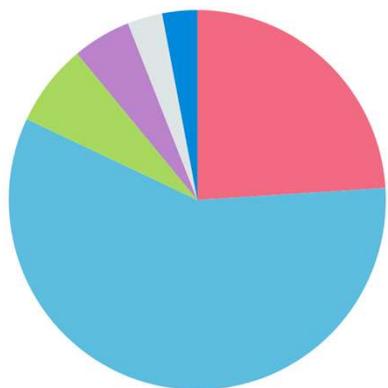
- ◆ **地域枠生と考える中高生向け薬学・薬剤師PR事業**
(R7:100万円→R8:92.5万円)
地域への貢献意欲の高い「地域枠」1・2期生のアイデア活かした中高生向けの薬学・薬剤師職のPR対策を、病院・薬業界と協力しながら検討・実施
- ◆ **人材紹介サービスを活用した行政薬剤師確保事業**
(R7:350万円→R8:350万円)
人材紹介サービスを活用した行政薬剤師の確保を試行的に実施
- ◆ **「富山県薬剤師確保対策推進協議会」の開催**
(R7:100万円→R8:77.5万円)
協議会において、県の薬剤師確保対策について検討を行う。
- ◆ **公的病院薬学生短期インターンシップの開催**
(R7:140万円→R8:105万円)
全国の薬学生を対象に、県内の公的病院で短期インターンシップ(職場体験)を開催する。県外の薬学生に対しては、富山県までの往復旅費をサポート
※R8年度も引き続き、3日間で機能の異なる3病院を体験するプログラムを実施
- ◆ **県庁・県立中央病院の薬剤師職員の確保対策**
(R7:330万円→R8:410万円)
リクルートサイトの活用や、就活イベントでのPR活動など。

5. 富山大学薬学部薬学科の 現状と取組みについて

薬学科(6年制)卒業後の進路

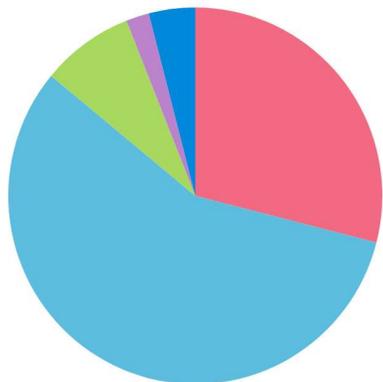
県内就職率は、ここ数年は20%程度で推移

2024年度(令和6年度)



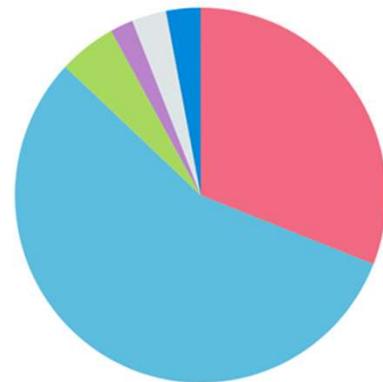
■ 病院 24% ■ 薬局 58% ■ 製薬会社 7%
■ 官公庁 5% ■ その他 3% ■ 進学 3%

2023年度(令和5年度)



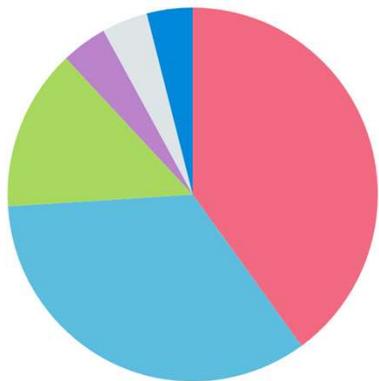
■ 病院 29% ■ 薬局 57% ■ 製薬会社 8%
■ 官公庁 2% ■ 進学 4%

2022年度(令和4年度)



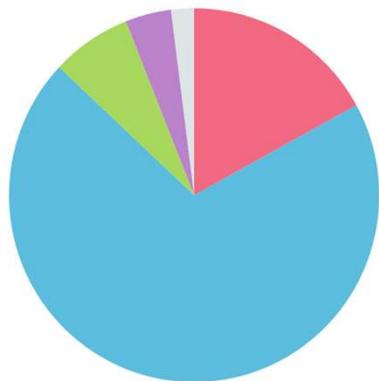
■ 病院 31% ■ 薬局 56% ■ 製薬会社 5%
■ 官公庁 2% ■ その他 3% ■ 進学 3%

2021年度(令和3年度)



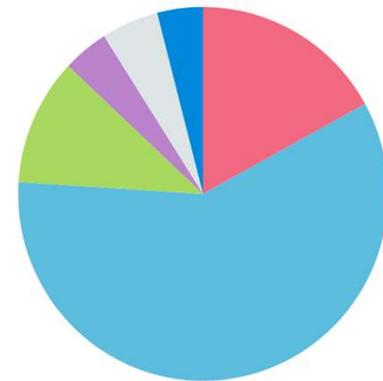
■ 病院 40% ■ 薬局 34% ■ 製薬会社 14%
■ 官公庁 4% ■ その他 4% ■ 進学 4%

2020年度(令和2年度)



■ 病院 17% ■ 薬局 70% ■ 製薬会社 7%
■ 官公庁 4% ■ その他 2% ■ 進学 0%

2019年度(令和元年度)



■ 病院 17% ■ 薬局 59% ■ 製薬会社 11%
■ 官公庁 4% ■ その他 5% ■ 進学 4%

令和6年度入学者選抜の入試データ

入試区分	募集人員	志願者数	合格者数 (県内数)	倍率
前期日程	35	150	40 (2)	4.3
後期日程	5	122 (受験者数41)	7 (0)	24.4 (8.2)
学校推薦型	10	57	10 (0)	5.7
総合型 (研究者養成枠)				
1次選抜	10	21	15	
最終選抜		15	10 (0)	2.1
総合型 (地域枠)				
1次選抜	10	17	15	
最終選抜		15	10 (10)	1.7
合計	70		77 (12)	

令和7年度入学者選抜の入試データ

入試区分	募集人員	志願者数	合格者数 (県内数)	倍率
前期日程	35	183	40 (7)	5.2
後期日程	5	78 (受験者数33)	6 (2)	15.6 (5.5)
学校推薦型	10	62	10 (1)	6.2
総合型 (研究者養成枠)				
1次選抜	10	19	10	
最終選抜		10	10 (0)	1.9
総合型 (地域枠)				
1次選抜	10	30	20	
最終選抜		20	10 (10)	3.0
合計	70		76 (20)	

令和8年度入学者選抜の入試データ

入試区分	募集人員	志願者数	合格者数 (県内数)	倍率
前期日程	35	174		5.0
後期日程	5	112		22.4
学校推薦型	10	63	10 (0)	6.3
総合型 (研究者養成枠)				
1次選抜	10	23	14	
最終選抜		14	10 (3)	2.3
総合型 (地域枠)				
1次選抜	10	21	12	
最終選抜		12	10 (10)	2.1
合計	70			

地域枠入試について

<出願要件>

- (1) 富山県内の高等学校等を令和8年3月卒業見込みの者又は卒業後1年以内の者
- (2) 薬剤師の資格を取得後、薬剤師として富山県内の地域医療や製薬産業に貢献するという強い意志を有する者
- (3) 合格した場合に入学が確約できる者

<選抜方法>

第1次選抜：書類審査（自己推薦書，調査書）及び「小論文・適性検査」の結果を総合的に評価する。

最終選抜：第1次選抜合格者に対し、面接及びプレゼンテーションを課し，第1次選抜の評価とともに総合的に評価する。

<入試の実施時期>

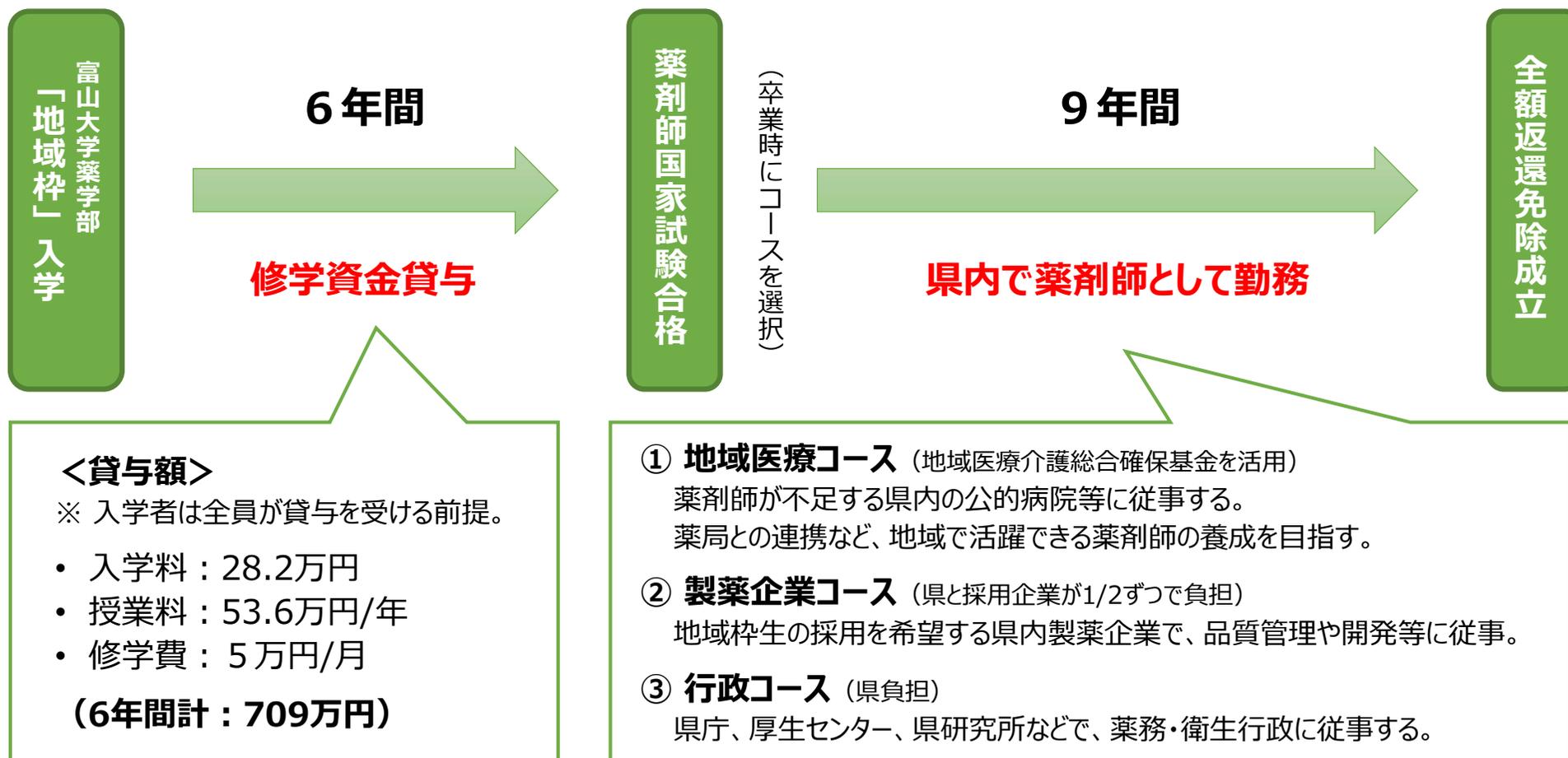
11月～12月に実施（合格発表は12月中）

富山大学薬学部「地域枠」について（富山県厚生部資料）

- 募集対象： 富山県内の高等学校等を卒業した者（卒業1年以内）
- 募集定員： 10名（薬学部薬学科70名の内数）
- 教育課程： 地域創生型カリキュラム
 - ・ 県内製薬企業へのインターンシップ（企業薬剤師育成学）
 - ・ 県内病院・行政等の見学ローテーション（薬剤師キャリアデザイン学）など

※国立大学薬学部として全国初

令和6年4月入学生への
入試から対象





薬剤師定着のための「地域創生型カリキュラム」

臨床薬学教育推進センター

■フューチャー・アレンジメント部門 ■臨床教育部門 ■グローバル・リレーション部門

- 富山県病院薬剤師会
- 富山県薬剤師会
- 富山県内製薬企業
- 富山県厚生部
- 富山薬窓会

○ 必修科目
● 正課外

薬剤師リカレント
教育プログラム

県内薬剤師を対象とした
スキルアップ卒後教育

薬都とやま
未来懇談会

病院・薬局実習

卒後

企業薬剤師育成学
(インターンシップ)

6年次

薬剤師キャリア
デザイン学

5年次

薬学経済

薬都富山のくすり業界の将来を考える
正課外イベント (薬都とやま未来懇談会)

4年次

県内病院・薬局での長期実務実習 (病院・薬局実習)

3年次

薬学部同窓生による多様なキャリア紹介 (薬学経済)

2年次

県内製薬企業へのインターンシップ (企業薬剤師育成学)
県内病院・行政の見学ローテーション (薬剤師キャリアデザイン学)

1年次

早期体験学習：県内病院・薬局見学、薬事行政 (薬学概論)
県内製薬企業による企業紹介 (製薬企業概論)

薬学概論
製薬企業概論

地域創生
コース

企業薬剤師育成学（薬学科必修、3年次前期）

令和6年度から開講

動画視聴後にグループディスカッション

分類	企業名	サブタイトル	長さ
企業薬剤師の役割 ① 「特殊製剤の製造販売業者」篇 その1	リードケミカル株式会社	経皮吸収型製剤 開発・製造の事例	37' 06"
	救急薬品工業株式会社	外用貼付剤、フィルム製剤 開発・製造の事例	21' 30"
企業薬剤師の役割 ② 「特殊製剤の製造販売業者」篇 その2	日東メディック株式会社	特定分野で一番を目指す医薬品 開発・製造の事例	20' 50"
	株式会社池田模範堂	肌分野の医薬品 開発・製造・販売の事例	23' 20"
企業薬剤師の役割 ③ 「医療用新薬・ジェネリック医薬品の 製造販売業者」篇	富士製薬工業株式会社	新薬・医療用医薬品 開発・製造の事例	28' 10"
企業薬剤師の役割 ④ 「原薬・ジェネリック医薬品の製造販売業者」篇	株式会社陽進堂	ジェネリック医薬品 開発・製造の事例	20' 00"
	ダイト株式会社	原薬から製剤まで 開発・製造の事例	15' 40"
企業薬剤師の役割 ⑤ 「医療用・一般用医薬品の製造販売業者」篇	東亜薬品株式会社	後発医薬品 開発・製造の事例	21' 12"
	テイカ製薬株式会社	創薬から受託製造まで 研究開発の事例	22' 00"
企業薬剤師の役割 ⑥ 「一般用医薬品・医療用医薬品・配置薬の 製造販売業者」篇	株式会社富士薬品	創薬・製造・販売まで つくる～届ける 複合型医薬品企業	24' 45"
企業薬剤師の役割 ⑦ 「医療用医薬品の製造販売業者」篇	富士フィルム富山化学 株式会社	新薬から製造まで 研究開発の事例	26' 52"

企業薬剤師インターンシップ（薬学科自由、3年次夏期）

令和6年度から開講

総合型選抜(研究者養成枠、地域枠)は必須とする

<実施内容>

製薬企業における実地でのインターンシップ(就業体験)

(製造現場や研究開発、品質管理部門などの見学や、若手社員との意見交換等)

<令和7年度 実施概要>

事前学習/ガイダンス：令和7年7月24日(木)4限 403講義室

職場体験学習：令和7年8月19日(火)～26日(火)の間で4日間、
1社あたり2日(2社訪問)、9:00～16:30

協力企業：(株)池田模範堂、ダイト(株)、十全化学(株)
富士化学工業、(株)廣貫堂、金剛化学(株)

(参考:令和6年度 協力企業)

シミックCMO(株)、新新薬品工業(株)、東亜薬品(株)、日医工(株)、明治薬品(株)

薬剤師キャリアデザイン学（薬学科自由、3年次前期）

令和8年度から開講

総合型選抜(地域枠)は必須とする

<実施内容>

富山県内の公的病院および行政機関(1人あたり4ヶ所)を訪問
見学および業務に関するディスカッションを行う

<令和8年度 実施概要(予定)>

事前学習/ガイダンス : 令和8年6月8日(月)

見学ローテーション : 令和8年6月17日(水)以降、毎週水曜日の午後、5週間

見学先 : 黒部市民病院、あさひ総合病院、富山労災病院

富山県庁、富山県薬事総合研究開発センター、衛生研究所

事後学習 : 各施設の見学後は、学修内容をレポートにまとめる